
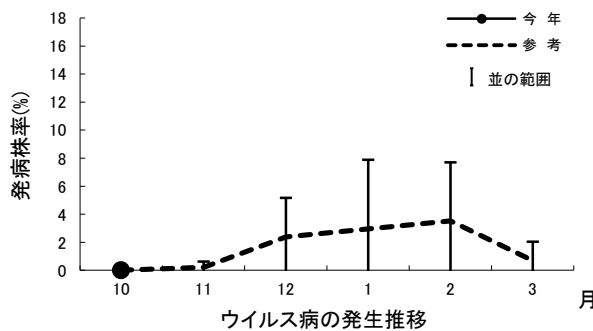


作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	① ウイルス病		
10月の発生量（現況）	(発生なし)並		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移、アブラムシが発生していることから、10月より発生量は増加すると考えられる。		

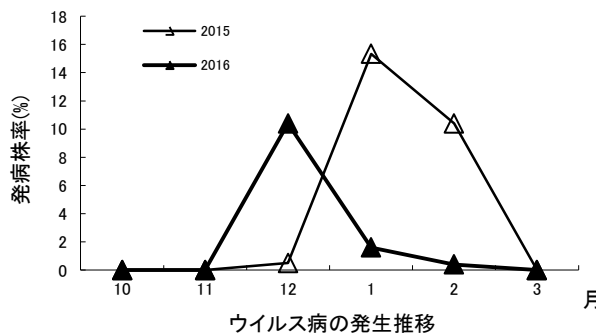
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月下旬の調査の結果、発病株率は0%（前年0%、平年0%）と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



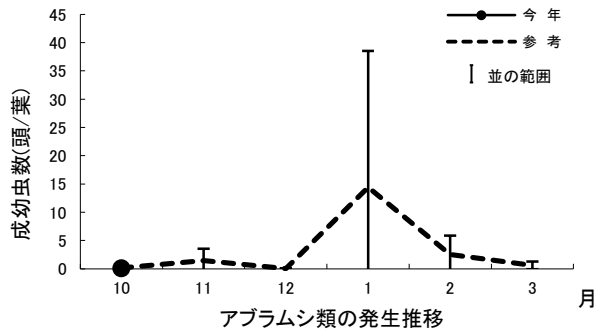
防除のポイント

- ・ ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、媒介虫であるアブラムシ類の有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・ 媒介虫の密度が低くても感染力は高いので、葉裏をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 発病株は発生源となるので見つけ次第抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

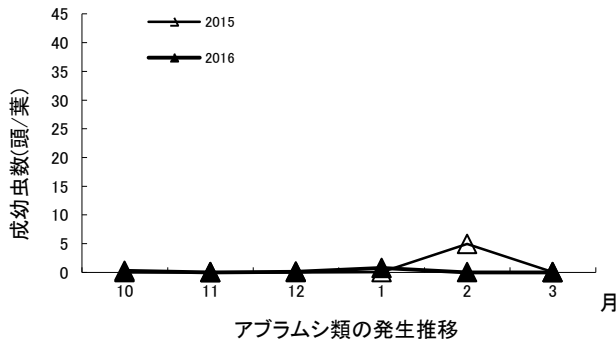
作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	② アブラムシ類		
10月の発生量（現況）	並		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月下旬の調査の結果、葉当たり成虫・幼虫数は0.1頭（前年0.3頭、平年0.2頭）と平年並であった。
（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

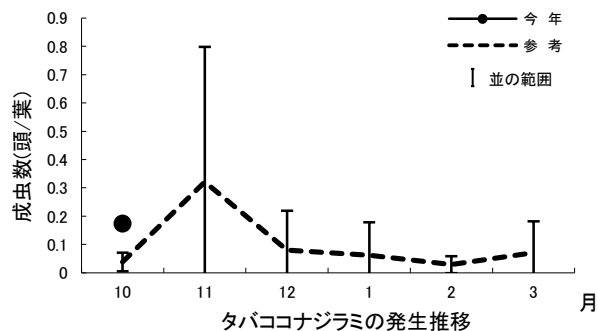
- ・ 本種はウイルス病を媒介する。
- ・ ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・ 葉裏をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		
10月の発生量（現況）	多		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。		

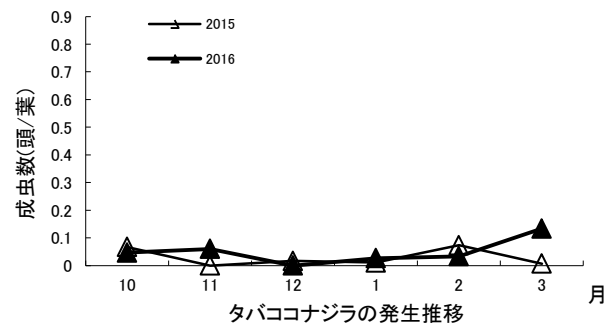
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.2頭（前年0.1頭、平年0.1頭未満）と平年より多かった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

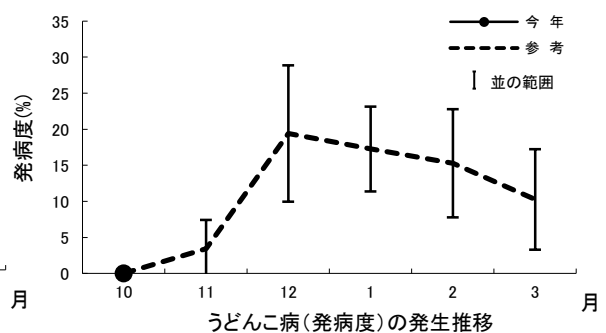
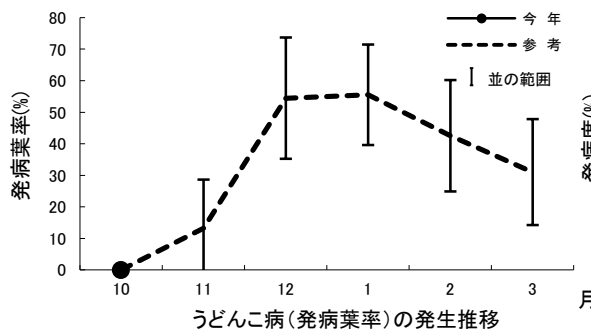
- ・ 多発すると白化症を引き起こし、生育不良となる場合がある。また、防除が困難になるので、葉裏を観察し早期防除に努める。
- ・ 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	うどんこ病		
10月の発生量（現況）	(発生なし)判定不可		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。		

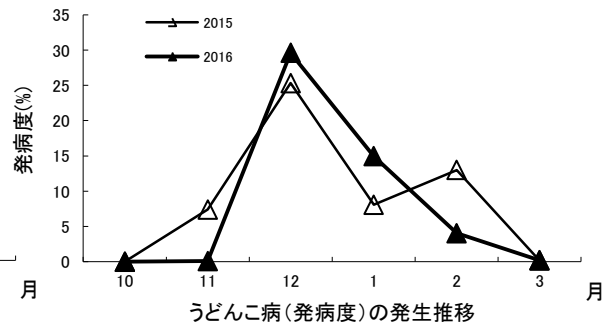
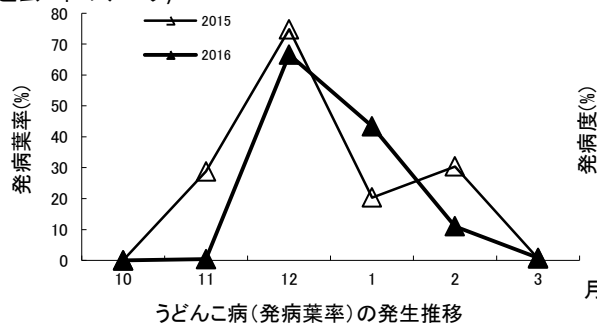
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月下旬の調査の結果、発病葉率は0%（前年0%、平年0%）であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

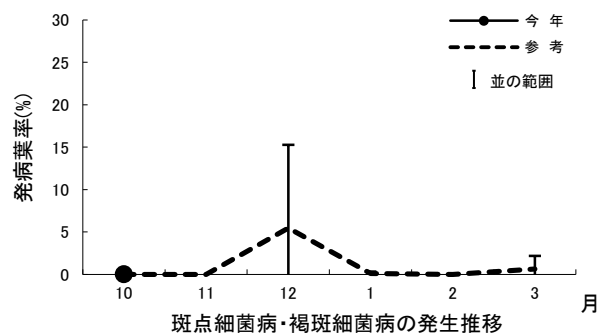
- ・ 株元の老葉を除去し、透光・通風をよくする。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、葉の表裏をよく観察し、早期防除に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	細菌性病害		
10月の発生量（現況）	(発生なし)判定不可		
11月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。		

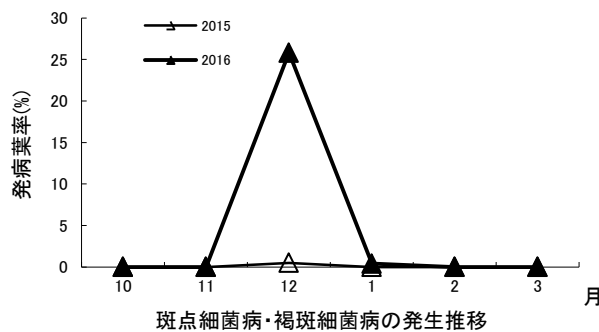
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月下旬の調査の結果、発病葉率は0%（前年0%、平年0%）であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

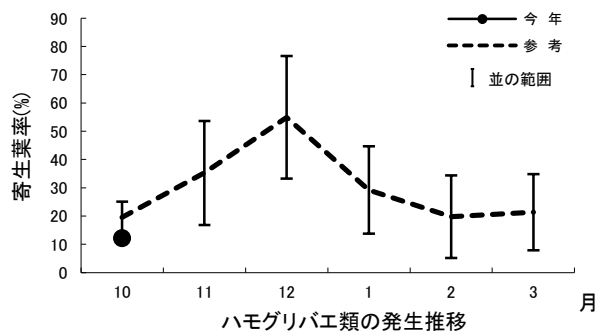
- ・ 降雨や強風などの気象条件が続くと急激に広がる場合があるので、風雨前後の予防散布を徹底する。
- ・ 平成28年度病害虫発生予報第9号（平成28年11月25日付）コラム参照。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
10月の発生量（現況）	判定不可		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。		

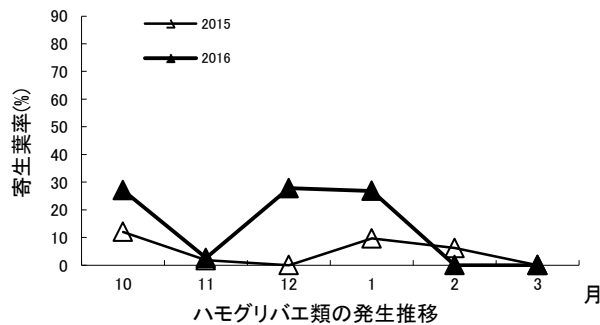
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月下旬の調査の結果、寄生葉率は12.1%（前年27.1%、平年19.5%）であった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

- ・ ほ場内外のウリ科・ナス科・マメ科などの雑草は発生源になることから、除去する。
- ・ 幼虫期間が比較的時間が短いので、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 農薬やその他の防除資材の効果の判定は幼虫の体色で判定する。生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒変する。